

## 二九精密機械工業

# 医療用ワイヤ量産開始

## 八木第2工場で研削加工

二九精密機械工業(本社||京都市南区、二九良三社長)はこのほど、医療用特殊ワイヤの量産を開始した。八木第2工場(京都市南区)に専用ラインを新設。ステンレスやニッケルチタン合金のコアワイヤや、カテーテルなど医療機器に用いられるテーパーワイヤを製作し、異種金属・樹脂への接合やコーティング処理にも対応する。生産能力は月5000本。テーパーチタン(βチタン)を二貫生産する極細量産とともに、新規需要の開拓を目指す。

八木第2工場は2020年10月に本格稼働。1階で医療関連部品の機械加工、2階でテーパーチタンやステンレスの極細管の研削、熱処理、検査工程をそろえていた。需要が伸びてきた。能力を倍増させた。

機、検査装置(自社製)などを導入。ワイヤを研削し、円錐状に先細りさせて多段のテーパーを形成する「多段階テーパー加工」を始めた。材質は各種ステンレスやニッケルチタン合金「ニチノー」など。

今回、2階にテーパーワイヤ加工を行うためのセンターレス研削加工機、熱処理炉、直線人体制で稼働している。段付きの特殊ワイヤは社内で、コバルト合金やニッケルチタン合金などの異種金属や樹脂との接合のほか、撥水・撥油性と耐薬品性を向上させるフッ素コートも表面に付着させることも可能。フッ素コーティングは4年前、極細管内面に施す技術を開発したもので、ワイヤ事業にも応用する。

二九社長は「顧客からの依頼を受け、構想から1年で実現した事業。今後は細径・高精度といった高付加価値を狙って、極細管と二本柱で伸ばしていきたい」と話す。当面は品質マネジメントの国際規格「ISO13485」を保有する医療分野をターゲットにして、新規開拓を図る方針。同社は医療用特殊ワイヤを含めて全社的な事業拡大を目指すため、今期(2022年3月期)は50人以上の新規中途採用を行い、人員を削減し増やし

0・2411・0mm、加工外径は最小0・04mmまで対応し、加工精度を示す公差は4桁。製品の最大長さは3300mm、テーパー加工部の最大長さは1500mmまで対応できるようにした。現在、特殊ワイヤの生産ラインは5

が将来の事業拡大を見据え、1月14日付で隣接する土地を購入する契約を結んだ。これにより敷地面積は1万657平方メートルに拡張した。

敷地面積を有している。1月14日付で隣接する土地を購入する契約を結んだ。これにより敷地面積は1万657平方メートルに拡張した。